

京都市環境審議会 平成22年度 第1回 京の環境共生推進計画評価検討部会
議事摘録

日 時 平成22年8月20日（金） 午前10時～11時45分
場 所 職員会館かもがわ2階第5会議室
出席者 小幡部会長，板倉委員，遠藤委員，徳地委員，中川委員，長谷川委員，松本委員
欠席者 大久保委員，奥原委員，深尾委員

内 容

1 開会

2 議題

（1）平成22年度京の環境共生推進計画評価検討部会の検討内容について

・事務局より資料1について説明。

（長谷川委員）平成21年度版の環境レポートを町内会で回覧し，希望者に配布したが，アンケートに回答した人は3人だけだった。未回答の理由を聞いたところ，①環境レポートは読みやすいが，難しい言葉はわからない，②その数字が本当に良いのかどうかわからない，③その数字の達成の難しさがわからないなどの意見が出た。つまり，自分はどれぐらいの責任をもって何をやればよいかがよくわからないのではないかと。環境レポートで狙っていることと読んだ人の反応がまだドッキングしていない。

（小幡部会長）「京の環境共生推進計画」の評価点検にも関連するため，その中で議論したい。

各自治会に該当する項目を取り出した，裏表1枚程度のわかりやすい配布物が必要かもしれない。

（長谷川委員）出前トークで環境レポートの解説をしていただく方法も考えられる。

（小幡部会長）多くの人が地球温暖化やごみ問題は重要と思っているが，自分の行動，生活を点検するところまでは至っていない。京都市も市民の動きを把握しきれていない。長谷川委員の指摘に留意し，議論していきたい。

（2）京の環境共生推進計画の中間点検について

・事務局より資料2について説明。

（小幡部会長）生物多様性については，「自然と共生し，うるおいと安らぎのあるまち・京都」で対応できる感じか。重点プロジェクトについては，後で説明があるのか。

（的場課長）重点プロジェクトについては，次回以降，達成状況や進捗よく状況を点検しながら，項目の継続，新規項目の設定などについて検討していただきたい。

（小幡部会長）他政令指定都市で掲げられている環境指標で参考になる項目，この項目が良いといったものはあるか。

（的場課長）他政令指定都市の環境指標を参考にまずは皆様のご意見をお願いしたい。

（松本委員）オゾン層の問題について。国際的な会議では，フロン回収がやはり重要だと改めて議論されている。フロン回収量について「経年的な比較が困難であるため削除する」とされ

ているが、削除という扱いは避けてほしい。これまでのフロン回収量はどの物質を対象としていたのか。

(的場課長) 項目として削除しても測定しないわけではない。フロン回収量にかわるものを環境指標項目として把握したい。

(小田切係長) 自動車リサイクル法の施行を受け、フロン回収破壊法による第二種特定製品であるカーエアコンからのフロン回収が、自動車リサイクル法の枠組みの中で実施されるようになった。フロン回収破壊法で管轄していた時と、自動車リサイクル法で管轄するようになってからの集計方法の違いにより経年比較が困難となった。

(松本委員) その通りだがデータはあるはず。経年比較できるのではないか。

(臼居環境指導課長) 比較可能な数値が把握できなくなっているため、こういう形での提案になったと思われる。何らかの形でデータは収集されていると思うが、京都市域のデータがあるのかどうかは問題である。別の環境指標を考えるか、別の資料でデータを集められるかどうかの検討が必要である。国の機関では、手数料等の関係で何らかの形でデータを把握していると思うが、それが地域別になっているのか、確認したい。

(松本委員) 今、一番問題になっているのは、生産が続いており、業務用冷凍空調機器を中心に、古いルームエアコンにもはいつている HCFC22、フロン 22 で、市内での備蓄量がかなり大きい。これが放出されると問題なので、今後、議論していく上では、フロン 22 を念頭においてほしい。

(小幡部会長) フロン 22 は測定されているのか。

(松本委員) フロン回収法の対象にはなっている。分離して測っているはずであるが、種類ごとのデータがあるかどうかはわからない。

(小幡部会長) フロン回収データの実態について調べ、次回以降、報告してほしい。フロン回収量を環境指標から削除するかどうか、また、これにかわる指標があるかどうか検討していきたい。

(長谷川委員) 大気に放出させない、回収するための京都市の策はどうなっているのか。フロンに限らず、策を実施した結果の数値を把握するのではないと意味がないのではないか。

(小幡部会長) 計画本編にフロン対策は掲載されている。こうした施策の結果、数値に表れることを評価する仕組みはできていると思うが、これでは不十分ということか。

(長谷川委員) そんなことはない。例えば、行政がメーカーとタイアップして機器を開発したなど、付帯的な説明があれば、数値が達成された根拠がわかり、納得できる。

(小幡部会長) その点は改定の際にいれていきたい。

(遠藤委員) 環境問題については、子どもにきちんと話せるものを作ってほしい。例えば、「環境への負荷が少ない持続可能なまち」について聞かれた時、子どもに届く言葉・伝えられる言葉で答えてあげられるようなものがほしい。

親水性のある水辺空間の整備面積については、確かに面積を把握するのは難しいかもしれないが、水辺に親しめる地点がどこにあるのかわかるようにしてほしい。

(松本部長) 子どもにわかりやすくという指摘は他計画の検討においても出されている。身近なところから子どもたちが学び、保護者にも広げていく取組を CO₂ 削減だけでなく、ごみ問題などにも広げていきたいと考えている。

親水性のある水辺空間の整備については、河川改修時にも配慮しており、どこにあるのかをPRしていきたい。

(的場課長) 小学校4年生で「みんなで考えよう! 「わたしたちの環境」」、5年生で「みんなで見つけ、変えていこう、わたしたちの環境」、中学生で「わたしたちの地球環境」という社会科の副読本がある。子どもには副読本、保護者にはこの環境レポートということで、副読本と環境レポートをリンクするような工夫も考えたい。

(中川委員) 子どもたちには、読んだり書いたりといった堅苦しい勉強ではなく、自然の中で環境教育をすることのほうが伝わるのではないか。この環境レポートに子どもたち向けの内容をいれるのは難しいので、地域の中で工夫していったほうが子どもたちにはインパクトがあるのではないか。

(小幡部会長) 「環境保全活動プログラム参加者数」や「こどもエコクラブ参加団体・参加者数」は、どんどん増えたほうがよいということで、目標値は設定していない。ただ、項目を増やせばよいというわけでもないが、これ以外の項目でふさわしいものはないか。

京都市では省エネ診断件数を把握しているのか。

(松本部長) 把握している。ただ、不況ということもあり、省エネ診断をして省エネ設備改修までつなげるのはなかなか難しい状況である。

(小幡部会長) 環境家計簿はいかがか。

(松本部長) 環境家計簿は伸びている。特に子ども版環境家計簿「こどもエコライフチャレンジ」は、全校で実施するようになり、右肩上がり伸びている。日常生活の中で電気・ガス代を見るということで、比較的取り組みやすく、定着しているようである。

関連して、昨年度からクリーンセンターを見学するエコバスツアーを開始している。産業廃棄物施設については、夏休みの間、親子で申し込んでいただき、バスで回る取組も行っている。

(板倉委員) 「保存樹・保存樹林数」はどこの部署の担当なのか。

(的場課長) 緑政課である。

(板倉委員) 保存樹・保存樹林は今でも存在し、数字としては出てくるため継続してほしい。

関連して、今年から生き物調査を始めたが、どれだけ学校・子どもが参加したのかを把握していけば、一石三鳥の効果がある。委員会を作り、指標となる動植物の種類を決め、市全域でネットワークを作れば、市の職員がやらなくても、先生と子どもたちが中心になって河川の水質や水生生物やセミを調べることができる。環境指標の調査と、子どもたちへの環境教育を同時にできる。もう少し本格的に始めたらどうか。

(小田切係長) 平成13年12月に京都市都市緑化推進協議会が発足し、保存樹については、この協議会で協議され、保存樹候補が推薦され、条例に基づき指定される。協議会発足当初に想定した保存樹の数は40~50であり、平成17年度に40件に達し、ほぼ目標を達成したため、この業務を終了したということである。

(板倉委員) 現在、保存樹が40数件あっても後で枯れることもある。目標を達成しても削除する必要はない。

(小幡部会長) 削除する理由はない気がする。保存樹の数は継続的に把握できるのか。

(松本部長) 新たに保存樹として指定する制度はなくなったため数が増えることはなく、枯れな

い限り、数に変化はない。

(的場課長) これに類する他の環境指標項目があるのかも含め、担当部署と調整したい。

(小幡部会長) 生き物調べの参加者数などもいれてほしい。

(的場課長) 生き物調査は始めたところである。こういう場所にこんな生き物がいたという報告を写真等で送ってもらっている。小学校での取組拡大の見込みがあり、ネットワークの広がりも見ながら、どういうことができるのかを考えていきたい。

(遠藤委員) 私の子どもは、学校で飼うために生き物を持ってくるよう言われ、買わないといけないと思った。こちらで伝えたいことが教育の現場に伝わっていないことが多く、連携が感じられない。

昔は給食の牛乳はびんだったが、今は紙パックであり、環境上これでいいのか、きれいに洗って捨てればそれでいいのか。最近、3R から 2R へと、ごみになるものを減らしていく動きになっているが、それと学校教育のピントがあっていないことが多いと感じる。

(松本部長) 学校給食の牛乳の紙パックは回収され、大半がトイレットペーパーに再生され、各学校に戻る。

生き物調査については、身近な生き物を見つけ、京都市全体の分布図を作ることを意図している。学校と連携はしていきたい。

(小幡部会長) 「親水性のある水辺空間の整備面積」が削除になっているが、河川や水路などの整備延長は市の統計等でわかるのか。

(小田切係長) 河川の整備延長はわかる。

(小幡部会長) 環境に配慮した整備延長など、「親水性のある水辺空間の整備面積」にかわる指標があれば採用を検討してもよい。

(松本部長) 親水空間の定義付けによるが、建設部局と調整したい。

(板倉委員) 国の方針ははっきりしており、水辺へ行ける階段が増えている。国土交通省も考え方が変わってきており、危険だから近寄らせないのではなく、皆が近寄って見るのがよい環境だということで、親水性を前面に出している。国・府・市の3つの管轄があり、調べるのは難しいかもしれないが、京都市内の河川を調べればわかることであり、削除するのではなく、調べてほしい。

(小幡部会長) 札幌市では「多自然型河川の整備延長」という項目を掲げている。他政令指定都市の環境指標を精査し、使える項目を抽出する作業を次回までをお願いしたい。

環境指標については、今日決めなくてもよいのか。

(的場課長) 本日は事務局の考え方を示している段階である。中間見直しということで、他の政令指定都市の環境指標項目のうち京都市と共通のもの、そうでないものを勘案した上で、京都市独自で入れたほうが市民にとって実感しやすいなどの検討をしていただきたい。

(松本委員) 「余剰電力売却量」が部会からの提案として掲載されている。これは非常にいいと思う。関電に伺えば数値はわかるのか。

(松本部長) 関電との調整が必要であり、それはしていきたい。余剰電力を買い取ることになり、全量買い取りの話も出ている。条例や計画を作っていく上で、色々と勘案すべきことがある。

(小幡部会長) 民間の太陽光発電システム導入量は指標として掲げられるのか。

(的場課長) 京都市が補助した太陽光発電量はわかる。ただ、民間で独自に設置した太陽光発電

システム発電量の把握も必要である。関電などと調整しながら、何らかの把握をしたい。

(徳地委員) 「森林吸収量」という言葉は適当でなく、変えてほしい。

(小幡部会長) 事務局で検討してほしい。

(遠藤委員) 水質汚染に関して、たくさん薬を飲む方の人体から排出される薬の残量が魚類に異変をもたらすおそれがあるという話を聞いた。この話はどう扱うべきか。

(臼居環境指導課長) 下水処理後、最終的に河川に放流する際、定期的に水質を測定している。水質基準にはないが、今後、基準になる可能性があるということで環境ホルモンも測定している。測定の結果、京都市域では問題がない状況であるが、今後、基準として設定されれば、水質汚濁に関する項目にはいってくることになる。

(長谷川委員) 人口1人当たり公園面積や緑被率は平成37年度の目標値を掲げているが、平成37年度までの過程、数値のカーブが設定されていない。今後の計画の中に、これらを設定するような討論ができるのか。

(松本部長) 現行計画に、緑地の保全・整備、公共施設の緑化、街路樹の整備などの施策を掲載しているが、途中経過で何%ずつアップする等を、計画の中に入れるのは難しい。

(長谷川委員) あの場所とあの場所を公園にする、といったポイントはあのか。

(的場課長) 特にそういうことはない。カーブとして上がっていくことを想定している。

(松本部長) ごみの計画でも、少しずつ下がって最終年度は目標数値に達するという計画である。

(長谷川委員) 公園面積はほぼ直線的に上がっていくのか、二次曲線的に急に上がるのか。

(小幡部会長) それは指標によって異なる。

(長谷川委員) 37%に向けてどういう伸び方をするのかイメージできない。

(小幡部会長) 個別の計画にプロセスは書いてある。

(的場課長) 京都市だけで決定できる部分とそうでない部分がある。ごみ問題についても、京都市はこうしたいという案を示しても、市民に信頼され、協力していただくことによるのみ目標を達成することができる。

(小幡部会長) 削除提案された環境指標について、測定方法などをもう一度精査していただき、いれるか入れないかをもう一度検討してほしい。生き物調査に関しても、他都市の項目も参考に、よい指標があれば次回もう一度提案してほしい。

また、次回部会までに環境レポートの活用方法を考えてきてほしい。時間があれば検討したい。

(3) 評価検討部会のスケジュール案について

・事務局より資料3について説明。

3 閉会